

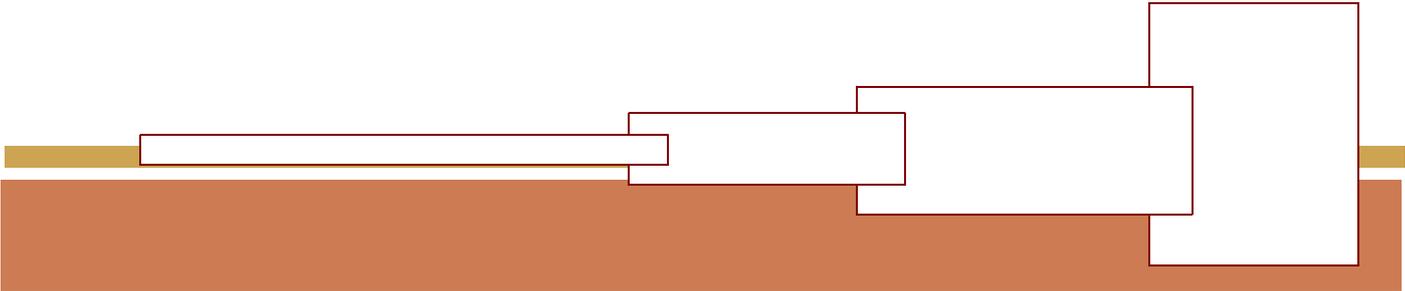
価値・意味・秩序

—ものごとの価値をよく理解した上で、自分なりに意味づけをし、
自分なりのルールを決め、高い志をもって主体的に学び続けよう—

学校法人有朋学園 有朋高等学院
理事長 特別講演会資料

2024年2月16日(金)
14:30~15:20
3階講堂

学校法人 有朋学園
理事長 林 明夫



お読みになりやすいように、QandAの形の資料といたします。御活用ください。

Q 1 : 学力とは何か。

A : 「学力」とは、「自覚をもって自分から進んで学ぶ力」、つまり「主体的に学ぶ力」と考えます。

Q 2 : 学力が身に着くとどうなるのですか。

A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩むこと」ができます。

(2) 「正常に機能する社会の形成に貢献すること」ができます。

Q 3 : 現代の社会はどのような社会ですか。そこで求められる基本的な能力とは何ですか。

A : (1) 「知識基盤社会 (knowledge Based Society ナレッジ・ベースト・ソサイアティ)」
… 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(2) 「グローバル(Global)化社会」 … 「多様な集団で交流する能力」

(3) 「課題山積(さんせき)社会」 … 「自律的に活動する能力」

Q 4 : そのような基本的な能力の前提となる条件は何ですか。

A : (1) 「読書による思慮深さ」を身に着けていること… 「書き抜き読書ノート」を

(2) 「新聞を読んで自分で考える能力、批判的思考(Critical thinking クリティカル・シンキング)能力」を身に着けていること… 「スクラップブック」を

Q 5 : 学校の勉強は役に立つのですか。

A : (1) 高校で学ぶ内容は、大学・短期大学・専門学校・社会での仕事や活動、よい人生を歩む上ですべて役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。

(2) ですから、大事なことは、高校の教科書や教材、ノート、辞書、参考書は絶対に捨てることではありません。そして、一生にわたって身近に置き、折に触れて読み返すことです。

(3) 教養は高校で学んだことの上につくられます。すべての基本は高校で学ぶ内容です。

Q 6 : 効果の上がる学び方を教えてください。

A : 学習を①「理解」、②「定着」、③「応用」の3つの段階に分けて考えることをお勧めします。



Q 7 : 「理解」とは何ですか。

A : (1) 「理解」とは「うんなるほどとよくわかること」です。

(2) 予習や復習をしていて「理解」をするのに一番大切なのは、「辞書」と「用語集」、「参考書」です。

(3) 教科書を学んでいてよくわからない「語句」があったら、必ず「辞書」や「用語集」、「参考書」で調べる。調べたことは必ずノートに書き写すこと。書き写したことはその場で覚えてしまうこと。

(4) 数学や理科などの計算や問題はノートに必ず書き写し、自分の力でできるところまでやってみましょう。

(5) 「予習」とは、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」ために行うものです。

(6) 自分でよく調べ、よく考え、それでもわからなかったら先生に遠慮なく質問しましょう。その結果は、ノートに書き残しておくこと。



Q 8 : ところで、ノートは取ったほうがよいのですか。

A : (1) 「授業の大切なところ」や「語句の意味」、「計算」や「問題」をノートに書くことは絶対に必要です。

(2) 「授業の大切なところ」を一冊のノートにまとめることができるのは、大切な「能力」の一つです。

(3) イギリスではノートを「notebook」と言い、一冊の本のように大切にしています。一生かけて自分のノートブックをつくり上げてくださいね。

Q 9 : 2番目の「定着」とは何ですか。

A : 「定着」とは「うんなるほどとよくわかったこと」つまり「理解」した内容を、「スミからスミまで身に着け、自分のものにする」ことです。

Q 10 : 「理解」したことを、どのように「スミからスミまで定着」させればよいのですか。

A : 「定着」のためには 3 つの練習が効果があります。私は、これを「定着のための 3 大練習」と名付けました。



Q11:「定着のための3大練習」とは何ですか。

A : (1)その第1は「音読練習」です。

- ・「スラスラとよく読めるようになるまで声を出して繰り返し読む練習をする」こと。これが「音読練習」です。

(2)その第2は「書き取り練習」です。

- ・「楷書(教科書の書体)で、書き順も含めて正確に書く練習をする」こと。これが「書き取り練習」です。
*英語は美しい筆記体で書く練習もしてくださいね。

(3)その第3は「計算・問題練習」です。(計算、ポチ、問題練習と読んでください)

- ・「なぜそのような解答になるのかが「うんなるほど」とよく「理解」できた計算や問題は、その計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で答えが出るまでにすること。これが「計算・問題練習」です。

Q12:「定着のための3大練習」は効果があるのですか。

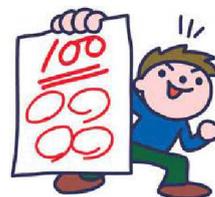
A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生の教えがあります。

(2)「定着のための3大練習は不可能を可能」にします。

(3)あらゆる試験でよい点数が取れますし、一度スミからスミまで覚えたことは一生忘れません。是非、実行してくださいね。

Q13:3番目の「応用」とは何ですか。

A : (1)「試験でよい点数、つまり、満点や合格点を取ること」と「社会に出て役立てることができること」です。



(2)テストでよい点数を取るためには、そのテストで過去に出題された問題(これを「過去問(かこもん)」と呼びます)や予想問題を5~6回分解くことが効果的です。

①そのときに大事なのが、一度やり終えた「過去問」と「予想問題」の「問題の本文」「設問」「選択肢」「解答」「解説」を学校の教科書を学ぶときや先生方の授業をお聴きするときの熱心さで一語一語正確に「理解」すること、「定着」を図ることです。

②よくわからない語句や内容は、辞書や用語集、参考書を用いて調べ尽くすことで「理解」に励むこと。「定着のための3大練習」に励むことです。

③これが、すべての試験で高得点を取り、また、試験問題を活用して学力を身に着ける最大のポイントです。

④自分で間違えた問題と正解を書き写す「間違いノート」、大切なポイントを自分でまとめる「まとめノート」なども極めて役に立ちます。どんどんつくって、繰り返し読み直し、スミからスミまで身に着けてください。

(3)「社会で役立つ」とときには、中学校や高校の教科書などが身近にあったほうが効果的です。絶対に処分しないでください。

Q14：高校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか。

A：(1)「5S」

- ①「整理」(seiri) 不要なものを捨てる
- ②「清掃」(seisou) きれいに掃除をする
- ③「整頓」(seiton) すぐにサッと出せるように、同じところに置く
- ④「清潔」(seiketsu) ①～③を継続する
- ⑤「躰」(shituke) 自分から進んでやる、決めたことを守る



(2)別の意味の「躰」

- ①美しい立居振舞い
* After you お先にどうぞ

②敬語表現を含む言葉遣い

(3)元気なあいさつ(感謝のことばも)



Q15：最後に、好きなことばを紹介してください。

A：(1)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(2)「持続する志」(大江健三郎先生)

(3)「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)

(4)「教育ある人とは学び続ける人」(ドラッカー先生)

(5)「健康第一(身体の健康、心の健康)」—お体を大切に—

—高校生は、自分自身にあまり厳しくしないこと、他人にもあまり厳しくしないこと—

以上

御清聴を感謝いたします。

* 御質問や御意見がありましたら、自由に発言してください。



効果の上がる学習の仕方を身に着けよう

—学力を向上させ、多様な選択肢のある人生を歩むために—

学校法人 有朋学園 有朋高等学院
講演会資料

2024年2月16日(金)

14:30~15:20

開倫塾 塾長 林 明 夫

- ・学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長 (福島市)
- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・マニー株式会社(手術用縫合針製造)顧問
元社外取締役 (本社 宇都宮、現地法人
ベトナム、ミャンマー、ラオス)
- ・特別養護老人ホーム清明苑 幹事

Q 1 : 高校での学習の目的は何ですか。高校での学習は、何の役に立つのですか。高校での様々な教育活動には、何か意味があるのですか。

A : (1)人は何のために学ぶのか、学力を身に着けるのか。「よく生きるため」には学力を身に着けることが大事です。

(2)「よく生きる」とは何か。2つあります。

(3)その第 1 は、学力を身に着けることは「人生の成功」に結びつくことです。学力を身に着ければ身に着けるほど、「多様な選択肢のある人生を歩むこと」が可能になります。「学力を身に着け、多様な選択肢のある人生を歩むこと」、「自分で選んだ人生の中」で「よく生きること」が学力を身に着ける目的です。

(4)「よく生きる」のもう 1 つの意味は、「学力を身に着けることで、人様のお役に立つ仕事や社会的活動をすることができる」、「仕事を通してお客様のお役に立つことができる」、ひいてはそれが「社会のお役に立つこと」につながることです。そのような人が多ければ多いほど、社会は「正常に機能する社会」、「持続可能な社会」になります。自分自身を含め多くの人々が学校で教育を受け、学力を身に着けることは社会の発展にもつながります。

(5)だからこそ、国民は税金を用いて学校教育を支えているのです。国民の貴重な税金を用いて行っている学校教育ですので、高校で学習する内容や科目以外の高校での教育活動で役に立たないものは何一つありません。

(6)学校での学習はすべて積み重ねですので、高校 1 年生で学習する内容はすべて高校 2 年生で役に立ちます。高校で学習した内容は皆様が高校を卒業したあとに進学をする大学、短期大学、専門学校で役に立ちます。就職して仕事に就いたあともすべて役に立ちます。

(7)逆に、高校卒業程度の基礎学力が身に着いていないと、大学や短期大学、専門学校での学習にはついていけません。就職をして仕事に就いても、十分な仕事はできません。

(8)高校で学習するすべての科目を身に着け、また、高校での科目以外の教育活動に積極的に参加してはじめて、大学や短期大学、専門学校での学習がスタートできます。また、就職してからの仕事に必要なことを学習することが十分にできます。



Q 2 : エーッ、高校を出てからも学習するのですか。

A : (1)現代は知識が基盤になった「知識基盤型社会」です。高校を出たあともより多くの「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」を身に着けなければなりません。コンピュータのスキルは必要不可欠です。

(2)また、現代は国境を越えてものやサービス、人やお金が激しく行き交う「グローバル化社会」です。人種や民族、価値観、宗教、文化、言語、行動様式などを異にする「多様な人々と交流する能力」を少しずつ身に着けなければなりません。自分と異なる考えや言語をもつ人々とトラブルを起こすことなくコミュニケーションを促進することが求められます。「英語」によるコミュニケーションのスキルは必要不可欠です。

- (3)さらに、現代は課題が山積する社会、「課題山積社会」でもあります。地域社会の課題、日本の課題、世界の課題は何かを自分の力で考える「課題設定能力」と、それらを自分たちの力で解決する「課題解決能力」が求められます。最終的には、高い志をもってそれらに挑戦し続ける「自律的に活動する能力」が求められます。
- (4)以上のような 3 つの特色をもつ現代社会の各々に対応する 3 つの鍵となるような能力が求められます。高校を卒業したあとも大学や短期大学、専門学校でさらに学習することが求められます。高校や大学などを卒業し、就職して仕事を始めてからも学習し続けることが求められます。
- (5)多くの方が 105 歳ぐらいまで生きられるようになりました。そこで、人生を 3 つに分けて、35 歳までは基本的な学習を、70 歳までは専門性の高い学習を、105 歳までは人生を充実させる学習をすることが「よく生きる」ためには大切です。
- (6)特に、高校での学習内容は各科目の基礎のまた基礎です。高校でしか学習できません。高校生のうちに全科目ともまんべんなく学習してくださいね。各科目の深い内容は、高校を卒業してからも、一生かけて学習してください。
- (7)就活や大学などでの学習、また、仕事や社会的活動には、高校の学習がすべて役に立ちます。ですから、高校 1～3 年の教科書や参考書、辞書、授業中のノートは必ずとっておき、決して捨てないこと。高校での先生の授業やクラスメートの姿を思い出しながら、高校の教科書やノートを繰り返し、繰り返し読み返すこと、辞書を用いてわからないことばを調べ続けることです。人生のすべての基本は高校の教科書に書いてあります。皆様は、そのくらい大切なことを、今、学習しているのです。



Q 3 : わかりました。では、高校での学習はどのように進めていったらよいのでしょうか。

A : (1)高校の学習で一番大切なのは、「予習」と「復習」です。

(2)ところで、大学や短期大学、専門学校に進学される皆様には、1 年を前期・後期に分けて各科目が用意されています。1 つの科目について、週 1 回 90 分の授業が 15 回行われます。その他に学期末のテストが 1 回分あります。テストの代わりにレポートという科目もあります。各科目とも 200 ～ 300 ページぐらいの教科書が用いられます。1 回の授業あたり 15 ～ 20 ページぐらい進みますので、予習をしないで授業に出ると、初めてなので「よくわからない」ことが多いようです。ですから、大学や短期大学、専門学校では 1 回の授業について 90 分以上の予習をすることが求められます。また、大学や短期大学、専門学校の授業は難しい内容が多いので、新しい内容に入る前に、それまでに学習した内容をよく「理解」した上で「身に付けておく(定着させておく)」ことが必要です。ですから、1 回 90 分の授業が終わったあとに 90 分以上の復習をすることが求められます。

(3)このように、大学や短期大学、専門学校では、授業時間と同じ長さの予習・復習が欠かせません。高校での予習・復習はその予行練習と言えます。

(4) 高校を卒業後に就職して仕事に就いたあとは、学校時代以上に別の意味での「予習」と「復習」が必要です。例えば、仕事をスタートする前には、その日の段取り(だんどり)、手順をどうするか考えなければなりません。週の仕事を始まる前にはその週の、月が始まる前にはその月の、1つの四半期が始まる前にはその四半期の、新しい年度が始まる前にはその年度の予習、段取り、手順を考え、万全の準備をすることが求められます。仕事は準備で結果が決まります。仕事をしながら準備をしたり、このあとどうしようなどと考えたりしていたのでは、よい仕事はできません。学校時代の予習は、仕事の段取り、準備の予行練習のようなものです。

(5) 仕事が終わったあとはどうするか。その日、その週、その月、その四半期、その年度の仕事をスミからスミまで振り返り、足りないところを補う。メモを整理する。頭に入れるべきことは入れる。反省をし、次からは同じ失敗・ミスをしないようにする。これが仕事を成功させる秘訣です。仕事における復習とは、振り返り・反省と言えます。

(6) 高校での復習は、社会に出て仕事をするときの振り返り・反省の予行練習と言えます。

Q 4 : わかりました。では、高校での予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1) 高校から教科書を頂いたその瞬間から教科書をどんどん読み、1日も早く1冊ずつ読み終えることです。

(2) 小説を読むようなつもりで、何日間かけて全科目の教科書を全部読み終え、それぞれの大筋をつかむこと。

(3) 1回読み終えた科目から科目ごとに「意味調べノート」を用意して、よくわからないことばに出合ったら辞書や各科目の用語集を用いて調べる。調べた内容はノートに書き写す。このような作業をしながら、今度はゆっくりと1冊分を読み終えること。

(4) 数学や理科、実業科目などで計算や問題がある場合は、自分の力でノートに解くこと。計算や問題文は必ずノートに写すこと。

(5) 英語や国語、社会、理科などはスラスラとよく読めるようになるまで何回も音読すること。CDのある科目はCDを買い求めて繰り返し聴き、読む練習をすること。

Q 5 : 辞書も使ったほうがよいのですか。

A : (1) 「ことばは力」です。予習で一番大事なのは、よくわからないことばや語句に出合ったら気持ちが悪く考えて、辞書や各科目の用語集を用いて必ず調べることです。調べたことはノートに書き写し、それを読み返して正確に覚えてしまうことです。

(2) 「国語辞典」、「漢和辞典」、「古語辞典」を大いに活用すること。

* 「古語辞典」でお勧めしたいのは、小西甚一著「基本古語辞典」大修館書店 2011年4月1日刊、1500円です。

(3)「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」を大いに活用すること。

(4)各科目の用語集は、例えば社会なら山川出版社はじめ各社から出版されています。

(5)家に辞書などがなかったら、「福島市内の図書室」「大学の図書館」などで調べること。

*身近なところにある図書館に毎日 1 回以上行き、そこで調べものをすることは大事な能力です。

Q 6 : 予習は何のためにするのですか。

A : (1)予習は、よくわからないことを自分の力ではっきりさせるため、はっきりさせてから授業に臨むためにするものです。

(2)ですから、よくわからないことばや語句を辞書や各科目の用語集、参考図書を用いてできる限り自分の力で調べることが、予習の内容となります。教科書や問題集の計算と問題はすべて書き写した上でノートに解いてみる。そして、どこがよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨む。これが予習の目的です。

(3)予習の段階でも、よくわかった、よく「理解」できた内容は「声を出して読む練習(音読練習)」や「書く練習(書き取り練習)」を繰り返し行うこと。予習の段階でも、「理解」したことは完全に身に着ける(定着させる)ことにチャレンジしましょう。予習に遠慮は不要です。どんどん予習してください。

(4)英語は、予習の段階で CD を用いてシャドーイング、つまり CD のほんの少しあとについて音読する練習を何十回も、何百回も繰り返し、最後は何も見ないで言えるまでにする。そうしてから授業に臨むことが最高の「予習」です。予習に遠慮は不要です。どんどん予習し続けてくださいね。

*ただし、教科書がスラスラと読めるようになったからといって、授業中に他人に自慢したり、威張ったりしてはいけません。練習すれば誰でもスラスラと読めるようになるのですからね。

Q 7 : 授業中はどうしたらよいのですか。

A : (1)よくわからないところを「理解」することが授業に出る目的の 1 つですから、「理解」を妨げることは一切しない。

(2)遅刻、欠席、早退、居眠り、ケータイ、ゲーム、私語、ボーッとすること、授業以外のことをすることなどは著しく自分自身の「理解」の妨げになり、時には他の人の「理解」の妨げになることもありますから、決してしない。



(3)先生の目を見て、積極的に授業に臨む。必要なことはすべてノートに取る、ノートにメモをし続ける。



Q 8 : エッ、授業中はノートを取ったほうがよいのですか。

A : (1) 先生が教えてくださったことで大切と思われることをすべて覚えているのは困難ですので、手が痛くなるくらいまでどんどんノートに取ってください。

(2) 授業中に必要なことをメモする、ノートに取ることができるのは極めて大切な能力です。皆様は、すべてが中国語やフランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語などで行われる授業のノートが取れますか。私も含めて多くの方は、全く取れないのではないかと思います。ある言語で行われる授業のノートが取れるというのは、極めて高い言語能力をもっていることを意味します。日本語で行われる授業のノートを取る訓練を高校生のうちに行ってください。

(3) 大学や短期大学、専門学校に進学してからも、また、就職して仕事をするときやボランティア活動をするときなどにも必要なことをノートにメモし続けることは極めて大切です。特に、仕事には決まった教科書がありませんから、必要なことはすべてメモを取り続け、あとでメモをまとめ、整理し、人との約束を果たすことが求められます。

(4) 「授業中に必要なことはすべてノートに取る能力」を高校時代に身に付けておくことは、高校卒業後にとても役に立ちます。

(5) ノートで大切なのは、ノートを取ったあとに使いやすい形によく「整理」することです。また、ノートを繰り返し読み直し、スミからスミまで正確に身に着けることです。ノートは 1 ページ目から読み返す習慣を身に着けると、いつも頭が冴え渡りますよ。試しに今日の午後の授業から、授業の直前に今までのノートを 1 ページから読み直してください。そのあとの授業が驚くほどよくわかりますよ。

Q 9 : 復習は何のために行うのですか。

A : (1) 復習には 2 つの目的があります。学校の授業で終わった範囲について「理解」を深めること、また、「理解」が不足している内容について自分の力で「理解」することが復習の目的の 1 つです。

(2) つまり、授業前に予習をしたり、学校の先生の授業を通じて少し「理解」できたことをもっと深く「理解」したり、先生の授業であまりよく「理解」できなかつたり、授業ではあまり触れられなかつたりした内容を授業が終わったあとにもう一度自分の力でやり直し、「そうか、これはこういうことなのか」と納得する・よくわかるまでにすることが復習の目的の 1 つです。

(3) そのためには、学校の教科書や教材、問題集、授業中のノートなどを先生の授業をお聞きするようにゆっくりとていねいに学習し直し、「理解」に励むことをお勧めします。

(4) わからないことばや語句があつたら、辞書や用語集、参考書などを用いて調べ、調べた内容はノートに書き写す。書き写したノートは 1 ページ目から繰り返し読み直すこと。何回も申し上げますが、「辞書の活用」が学力向上のポイントです。この復習をするにも図書館の活用が大切です。



(5)授業中に一度やった計算や問題をもう一度やり直すこと、授業中にやり残した計算や問題をすべてノートに解いてみることも大切な復習です。

(6)間違えた計算や問題でどうしても解き方がわからないものがあつたら、解答集がついていたらその解説をゆっくりとよく読んで正解と正解に至る解き方や考え方などの「理解」に努める。そして、その正解と説明を赤字でノートに書き写しておく。

(7)その上で、できなかった計算や問題をもう1回やり直してみる。



*これが復習のポイントです。

Q10:「復習」のもう1つの目的とは何ですか。

A : (1)予習や授業、第1番目の復習で十分に「理解」できたところまでをスミからスミまで正確に身に着けることです。これを「定着」と言います。この「定着」のためには、次の3つの「練習」がとても役に立ちます。

(2)私は、次の3つの練習を「定着のための3大練習」と名付けました。福澤諭吉先生が創設した慶應義塾の塾長に小泉信三先生という方がおられ、「練習は不可能を可能にする」という素晴らしいことばを遺されました。「定着のための3大練習」も「不可能を可能にする」。そう確信します。

——— スポーツの3つの宝 ———

①「練習は不可能を可能にする」 ②「フェアプレー」 ③「よき友」
--

——— 小泉信三先生 ———

Q11:「定着のための3大練習」とは何ですか。

A : (1)第1は「音読練習」です。少し大きな声を出して教科書や教材、問題集、授業中のノートをスラスラとよく読めるようになるまで繰り返し読む練習をすることです。

(2)できれば、大事なことは何も見ないでスラスラと言えるようになるまで「音読練習」をすること。特に「○○は・・・だ」という「ことば・語句のことばの意味」、つまり「定義」は「音読練習」をしてくださいね。

(3)第2は「書き取り練習」です。「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになった内容を、今度は何も見ないで「楷書(かいしょ)」、つまり教科書の書体で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。特に大切な語句のことばの意味、定義(「○○は・・・だ」)は正確に書けるまでにしておきましょう。

(4)英語は、「音読練習」をしてスラスラと口をついて出てくるようになった英文を、「ブロック体」だけでなく「筆記体」でもきれいに書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。筆記体で書く練習をしておかないと、筆記体で書いたものが読めないことがあるからです。

(5)第3は「計算・問題練習」です。なぜそのような解答になるのかが「うなるほど」とよく「理解」できた計算や問題は、それを見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すこと。答えがパツと出る計算や問題が多ければ多いほど、試験のときに「時間的なゆとり」が生まれ、自分にとって難しい問題や考えさせられる問題をゆっくりと解くことができるようになります。

定着のための3大練習

①「音読練習」

②「書き取り練習」

③「計算・問題練習」

—定着のための3大練習は不可能を可能にする—

25670 ÷ 324



Q12：定期試験で100点を取る方法がありますか。

A：あります。次の(1)～(4)を徹底的にやり抜くことです。

(1)教科書が手に入ったら、1科目でも多く1冊すべて読んでしまうこと。

(2)辞書などを用いて授業の予習をし、わからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと。

(3)授業中は先生のお話をよく聞き、大切なことはすべてノートを取ること。

(4)1つ目の復習をして、授業の内容をもう一度やり直すこと。ノートを整理すること。授業中によく学習できなかったことを自分の力で「理解」すること。

(5)復習の2つ目として、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」をやり抜くこと。

*テストの1～2か月前からこの(5)をやり抜けば、高校でも、大学や短期大学、専門学校でも、誰でも定期試験で全科目100点が取れます。私がお示しする学習方法はすべて時間がかかりますので、試験直前では間に合いません。

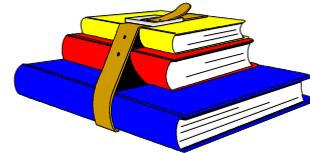
Q13：大学入試や国家試験、資格試験、検定試験などの試験に合格するにはどうしたらよいのですか。

A：(1)まずは、試験に出題される科目の標準的な教科書を、学校の先生の授業をお聞きするようなつもりでゆっくりとていねいに一語、一語、正確に読み、「ああ、これはこういうことなのか」と納得すること、「理解」することです。

(2)そして、教科書を読んでいてよくわからないことばや語句があったら辞書や用語集、参考書を用いて納得いくまで、よくわかるまで、「理解」するまで調べ、調べた内容はすべてノートに書き写す。書き写したノートは、1 ページ目から繰り返し、繰り返し読み直し、すべて正確に覚えてしまうことです。

(3)教科書にある計算や問題、学校で用いる問題集の計算や問題はすべてノートに書き写した上で解いてみることもお忘れなく。自分で答え合わせをして、間違えたり、よくわからなかったりした計算や問題があったら赤でノートに正解や解説を書き写し、なぜそのような答えになるのかを自分の力で考えることです。教科書や問題集に答えを書き込んでしまうと 2 回目の学習がやりにくくなるので、答えは書き込まないこと。どうしても書き込みたかったら、もう一冊同じものを買うことです。

(4)計算や問題を含めて教科書の内容がよく「理解」できたら、「定着のための 3 大練習」つまり「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返し行い、教科書の 1 ページ目から最後のページまでに書いてあることすべてをスミからスミまで完全に覚え切ること。



(5)ここまでの作業を自分の力でやり遂げてくださいね。

(6)いろいろな試験のために予備校や通信添削などを利用するときは、そこで用いる教材を教科書とすることをお勧めします。その教科書も(1)～(4)のやり方でていねいに学習してくださいね。

(7)専門の生々からの授業が聞ける科目については、予習・復習を十分にしながら積極的に授業に出てください。

Q14：これだけでよいのですか。

A：(1)試験に慣れている人の中には、これだけで十分な合格点が取れる人がいるかもしれませんが、しかし、せっかく試験を受けるのなら確実に合格してもらいたいので、「過去問」つまり「過去に出題された問題」の最低でも 5 年分以上を各々 5 回以上ノートに解いてみることです。

(2)「大学入学共通テスト」などは、「過去 15 年間に出版された問題(各年の追補問題も含む)」を 5 回以上ずつ解くことをお勧めします。

(3)1 回分ずつノートに問題を解き、解き終わったら「解説」を読みながら答え合わせをする。なぜそのような解答になるのかを自分で考え、必要なことはノートに書き写すこと。ここまでは必ず実行してください。

- (4)このあとが大切です。「大学入学共通テスト」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、これに加えて「解答・解説の文章すべて」を「大学入学共通テストのための教科書」と考えて、各科目の教科書をゼロから学習する態度で、辞書や用語集、参考書を活用しながら一語、一語ていねいに「理解」に励むことです。
- (5)十分に「理解」したら、次はどうするか。「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」をすみからすみまで「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」すること。
- (6)大学入学共通テストなら、毎年の「追補問題」を含めて15年分×2回、つまり合計30回分を各々5回ずつこの方法で学習すれば、誰でもかなりの高得点が取れます。
- (7)ただし、1日に1回分以上はできませんので、5回ずつやり抜くには最低半年はかかります。ですから、大学入試に出題される科目の教科書の学習は高校2年生までに済ませ、試験の1年前からは今お示した方法で学習することを私はお勧めします。
- (8)国家試験や資格試験、検定試験なども全く同じです。まずは、試験の半年ぐらい前までに辞書や用語集、参考書などを活用して教科書をすみからすみまで「理解」した上で、「定着のための3大練習」つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返してすみからすみまで身に着ける、「定着」させる。
- (9)次に、公表され出版されている「過去問」の最低5年以上を、できれば5回以上やり抜く。それもただ単に解くだけではなく、「過去問」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」も「教科書」と考え、辞書などを用いてすみからすみまで「理解」する。同時に、「理解」した内容は「定着のための3大練習」を用いてすみからすみまでの「定着」を図ること。ここまでやれば、大体の試験に合格します。
- (10)今から3か月先の6月8日に、2014年度の第1回英語検定試験があります。今、お話した方法で英検に挑戦してみてください。



Q15：学力の高い人に共通することは何ですか。

A：(1)3つあります。

- (2)第1は、学力の高い人は「自覚をもって学習する」人が多いようです。自分が今なすべきことは何なのか。今、自分は何のためにこの場所にいる、何のために学んでいるのか。今、自分は何をしようとしているのか。自分が今していることの意味は何なのか。これらを自分の力で考え、今、ここでなすべきことに全力を尽くしている人は学習をするときに自覚をもってしますので、学力が高いと言えます。
- (3)「自覚をもって学習する」とどうなるか。何のために学習するのかをよく自覚していますので、これでもかというくらい長い時間にわたって学習してもあまり苦になりません。いくら学習してももっと学習したくなるので、「学習時間」が自然と長くなります。1冊の教科書を学校の授業に沿って「理解」し「定着」させるのにもかなり時間がかかりますが、先生

の授業なしで教科書だけで学習しなければならない場合は、1冊のすべてを「理解」した上で身に着ける・「定着」させるためには100時間以上の時間がかかることがあります。そのような「長時間」の学習に耐えられるのが「自覚をもって学習する人」です。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は「自覚をもって仕事をする人」です。何のためにこの仕事をしているのか、今、この仕事をする意味は何なのかを考え抜いて仕事をする。もっと言えば「自分の社会的使命」を「自覚」しながら仕事をする人は「よい仕事をする人」と言えます。

(4)学力の高い人に共通することの第2は、自分に合った「学習の仕方」を身に着けていることです。いつも、どのような学習の仕方をすればよいのかを工夫し、学習の仕方についても「学び」続けている人は、学力が高いと言えます。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は、いつも仕事の仕方を工夫し続けます。例えば、実際になさっている有朋高等学院で皆様も熱心にお取り組みになっておられる「整理」→「清掃」→「整頓」→「清潔」→「躰」の「5S」は、「仕事の仕方についての工夫」です。このように、「5S」を含めて「仕事の仕方についての工夫をし続ける人」は「よい仕事をする人」と言えます。

(5)学力の高い人に共通することの第3は、「読書による思慮深さ」を身に着けていることです。では、何を讀んだらよいのか。授業中に先生から紹介された本や、学校の教科書で紹介されている本、公立の図書館などに置いてある本は、選び抜かれた著者によって書かれた本です。その中から自分の興味・関心のある分野や著者の本で高校生として読むべき本を探し出し、じっくりと読むことを私はお勧めします。

(6)私が高校生のころは、学校の先生に勧められて、「岩波文庫」や「岩波新書」など岩波書店から出版された「文庫本」や「新書本」を毎週1冊ぐらいずつ読んでいました。

(7)あまりよくわからないものもありましたが、「岩波文庫」本を讀んでこういう考えもあるのかと思ったり、「岩波新書」本を讀んで現代の世の中はこのようになっているのだと考えたりもしました。

*読書の醍醐味(だいごみ)とは何か。「時」や「空間」を「超えた」「著者と
の対話」、「時空を超えた著者との対話」だと私は考えます。



(8)読書によって得られるのは思慮深さです。「読書による思慮深さ」を身に着けている人はものごとを深く考えますし、身に着けている「語彙(ごい)数」が多いため読む力が高いと言えます。教科書や試験問題を含め、文章を讀み解き「理解」することができますので、自ずと「学力の高い人」となります。

(9)読書と同時に、「新聞を讀んで自分で考える力、批判的思考能力を身に着けている人」も「学力の高い人」に多いと思われます。「新聞は社会の番犬(watch dog)」「社会の問題点・社会の取り組むべき課題はここにあると読者に知らせることが新聞の社会的役割」と考えて命を懸けて記事を書き続け、それを編集し、発行し続けるのが新聞記者、新聞社の社会的使

命です。

そのような新聞が、毎日、日本全国の家庭に届けられます。日本の新聞は素晴らしいもの、日本の誇るべき文化の1つです。

是非、皆様も1日に30分以上は新聞を1面からなめるように読み、今、地域や日本、世界ではどのようなことが起こっているのか、これからの地域や日本、世界はどうなるのかを自分の力で考え、批判的思考能力を養い、果たしてこれでよいのか、ではどのようにしたらよいのかを自分の力で考えてくださいね。

Q16：最後に、林さんの好きなことばを紹介してください。

A：(1)「ブルドッグ魂」

(2)「練習で泣いて試合で笑え」

(3)「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心に取り組もう)

(4)「会った人は皆友達」

(5)「離見の見(りけんのけん)」(舞台上で踊っている自分を離れている客席から見ること)

(6)「教育ある人とは、学校を卒業したあともずっと学び続ける人」

(7)「一生勉強、一生青春」

(8)「健康第一」(心の健康、身体の健康)

御清聴ありがとうございました。



感謝



Q 1 : 大学入試まで1年となりました。どうしたら希望校に合格できますか。

A : 大学入試の受験生としての「自覚」を持って学習することが第1です。自分は来年の1月に大学入学共通テストや各大学の入学試験を受験し、希望する大学への入学を果たすのだという「大学入試の受験生」としての「自覚」を持ってこれからの365日を真剣に過ごすことです。

Q 2 : 受験生としての「自覚」を持つためには、どうしたらよいのですか。

A : (1)自分は何のために大学に進学をするのか、「大学に進学する目的」を明確にすることが最も大切です。大学に進学して何を学び、大学を卒業してどのような仕事や活動がしたいのか、どのような人生を歩みたいのかを自分の力で考えることが大切です。

(2)希望する大学の入試合格はそのための一つ的手段にすぎません。大切なこと、目的とすべきことは大学に進学して何をするかです。

(3)大学進学目的がはっきりしている大学生にとって、大学はありとあらゆる学びの機会を用意している素晴らしい教育機関となり、大学のすべての教職員は最大限の支援をしてくれますよ。

Q 3 : そんな難しいことは今まで考えたことがありませんでした。どうしたらよいでしょうか。

A : 困りましたね。そうであるならば、お勧めしたいことが3つあります。

(1)第1は、家や学校の図書館、公立図書館、近くの大学にある大学図書館で、今日から新聞を毎日1時間以上読み、地域社会や日本、世界でどのようなことが起こっているのかを知ることです。

新聞は社会の番犬(watch dog、ワッチ・ドッグ)で、社会の問題の在りかをワンワンと声を出して示すことが社会的使命(ミッション)です。

新聞を一面からなめるように毎日1時間以上じっくりと読み、世の中で起きていることで自分として最も関心のあること、おかしいと思うこと、不条理・義憤を感じることを、自分の人生を懸けて取り組むべきことを見つけることを私はお勧めします。

(2)第2は、読みたい本をじっくりと探して1~2週間かけてゆっくりと読むことです。筆者と時や空間を越えた対話をするをお勧めします。

(3)第3は、進学を希望する大学に土曜日や学校が休みの日などに一人で出掛けて行き、1日ゆっくりと過ごすことです。学校のオープン日まで待つ必要はありません。1日も早く行ってください。大学の購買部で本やノートを買ったり、レストランやカフェテリアで食事をしたりすること。近くにいる学生の何人かにこの大学はどのような大学かを聞くこと、許可を得て授業を見学させてもらうこと、図書館や体育館を見学することもお勧めします。入試課に行き、学校の資料も頂いてきましょうね。

大学生活や大学卒業後の進路についても、大学の学生課の方には是非質問してください。

Q 4 : 「受験生としての自覚」が深まると、どうなるのですか。

A : 私は、受験に限らず、学習効果は次の3つのかけ算で決定されると考えます。

(1)「本人の自覚」×「学習時間」×「学習方法」＝「学習効果」

$$0 \quad \times \quad 0 \quad \times \quad 0 \quad = \quad 0$$

$$10 \quad \times \quad 10 \quad \times \quad 10 \quad = \quad 1000$$

(2)「本人の自覚」があれば、「学習時間」が多少長くてもあまりストレスにはなりません。また、「学習方法」も自分の力でよく考えるようになり、いろいろと工夫するようになります。

(3)「本人の自覚」がないと、「学習時間」はあまり長くなりませんし、「学習方法」もあまり工夫しません。「本人の自覚」がなければ、いくら長い時間机に向かっても、また、すぐれた学習教材を用いても高い学習効果は期待できません。

(4)つまり、最も大切なのは「本人の自覚」、つまり「自分は大学入試の受験生であるという自覚」です。

Q 5 : 希望校の入試に合格するには、長い学習時間が必要ですか。

A : (1)先日の1月13日・14日の大学入学共通テストで高得点を取った人の学習時間は決して短い時間ではなかったと私には思えます。この1年以上、特に、入試直前になると眠る時間以外は学習時間という受験生が数多かったようです。

(2)学習時間の確保のためには、自分自身の行動を律しながら、コントロールしながら行動する能力、つまり「自律的に行動する能力」が求められます。受験生として今しなければならぬことをはっきりと自覚すること。例えば、ケータイやスマホ、ゲーム、長風呂、長TV、長い時間悩み続けることなどは避けたほうがよいと思われます。「ケータイの3分ルール」や「チャット」などは避けるほうがよいと思われます。

(3)「今やるべきことを今やる」。これは、受験生としての常識です。ただし、家の手伝いや学校での活動は、家族や高校生としての責任を果たすことです。積極的に行ってくださいね。

(4)ありとあらゆる細かな時間を活用して受験学習に当ててください。授業中の「内職」は絶対に避けましよう。受験科目ではないからといって教科の学習を放棄することはやめましよう。すべてが大学や社会で役に立つものですが、高校での学習は高校でしかできない、一生に1回しかないものです。1回1回の授業を大切にしてください。

(5)ですから、この「学年末試験」では、十分な時間をかけて全エネルギーを傾けて一心不乱に学習し、全科目100点を目指してくださいね。受験のための学習のよいスタートになりますよ。

Q 6 : では、次に効果の上がる「学習方法」についてお話をください。

A : 希望する大学の合格を勝ち取るためにはどうしたらよいか。今までのお話をまとめてみます。大切なことは3つあります。つまり、

(1)大学進学をの目的をしっかりと持ち、その目的を達成するために自分は1年後に大学入試を受ける大学入試の受験生であるという「自覚」を持つことが第1に大切。眠る時間以外は一心不乱に学習し続ける、つまり、長時間学び続けることが第2に大切。どのように学習したらよいか、学習の仕方・方法を工夫することが第3に大切。そこで、3番目の「効果の上がる学習方法」を今からお話まします。ここからが本日の私の講演の本番ですよ。

(2)私は、大学入試合格のための「学習」を「学ぶこと」と「習うこと」、「合格点を取ること」の3つの段階(ステップ)に分けて考え、1つ1つの階段、ステップを確実に踏むことをお勧めまします。

Q 7 : 第1段階の「学ぶ」とは何ですか。

A : (1)私がいう「学ぶ」とは、各教科の学校の教科書、受験生であるならば各教科を学ぶ上で一番大切と考える教材を自分でよく読み、そこに書かれている1つ1つの内容を「ああ、これはこういうことか」とよくわかること、納得すること、よく「理解」することです。

(2)学校や予備校などの授業を受け、各教科の1つ1つの内容について「ああ、これはこういうことなのか」と「よくわかること」、「納得すること」、つまり、よく「理解」することです。第1段階の「学ぶ」とは、自分で教科書を読んだり、授業などで先生から教えて頂いたりしてものごとの本質がよくわかること、納得すること、「理解」することと私は考えまします。

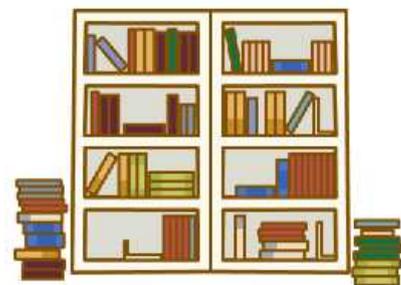
Q 8 : 教科書などを用いて「理解」するとき大切なことは何ですか。

- A : (1)「理解」で一番大切なことは「ジーン」と「ある一定時間」、できれば「長時間集中して机に向かうこと」です。教科書などを「一文字、一文字」じっくりと読み、これはこういうことなのかと、そこに書いてある意味を「一語、一語」かみしめることです。
- (2)次に大切なのは、教科書などを読んでいてよくわからない「文字」や「語句」があったらよくわからなくて「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、各教科の詳しい「参考書」などを用いて調べること。調べた内容は、「ノート」に書き写すことです。
- ①「辞書」とは、「国語辞典」、「漢和辞典」、「古語辞典」、「英和辞典」、「英英辞典」などです。
- ②「用語集」とは、「日本史用語集」、「世界史用語集」、「倫理用語集」、「政治経済用語集」、「生物用語集」、「化学用語集」、「物理用語集」、「地学用語集」などです。
- ③「参考書」とは、受験生が普通に用いている各教科の受験参考書です。年表や地図帳などもこれに含まれます。
- (3)「ことばは力」です。英語や国語はもとより、社会や理科、数学でもどのくらい多くの「ことば」を知っているか、正確に身に着けているかで学力は決まります。正確に身に着けている「語彙(ごい)の多さ」が大切です。
- (4)このように、教科書などに出ているすべての「ことば」、「語句」について、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてこれはどのような意味なのかをよくわかること、十分に「理解」すること、「調べたことはノートに書き写すこと」がまずは大切です。
- (5)受験生にとって、「教科書」だけでなく「辞書」、「用語集」、「参考書」、「ノート」は「武士の刀」に当たります。「教科書」や「問題集」と同様に、「辞書」や「用語集」、「参考書」もたえず持ち歩いて身近に置き、ボロボロになるまで使いこなしましょうね。学校のロッカーの中にしまったままで取り出さないのでは学習に支障が出ます。

Q 9 : 「辞書」と「用語集」ですか。意外なものが出てきましたね。ところで、予習は何のために行うのですか。

- A : (1)学校の授業で学ぶ内容を、授業前に自分で教科書などで学習して「理解」に励むことを「予習」と言います。予習は何のために行うか。よい質問です。
- (2)「予習は自分の力で教科書や指定された教材をよく読み、また、教科書に載っている問題や問題集の指定された問題を自分の力で解き、よくわからないところ、自分の力ではどうしてもできない問題を発見する、はっきりさせてから授業に臨むために行うものだ」と私は考えます。つまり、「予習はよくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」というのが私の考えです。
- (3)この「予習」の考え方に基づいて、3月下旬や4月に高校3年生の新しい「教科書」を入手した直後から全教科の「予習」をしてみてください。面白いほど高校3年生の「教科書」の「予習」が進みますよ。ゴールデン・ウィークが終わるまでに全教科の「予習」を済ませることをお勧めします。
- (4)「わからないことをはっきりさせてから授業に臨む」ことが「予習」の目的であるという「予習」についての考えは、「大学」や「大学院」に進学してから役に立ちます。大学や大学院での授業や研究は、私が今述べた意味での「予習」を自分で済ませたことを前提にすべて行われるからです。家や下宿、学生寮には「予習」をするための「辞書」や「用語集」、「参考書」をすべて備えることは困難です。そこで、授業や研究の「予習」を自分で行う場として「大学図書館」が存在します。大学入学後こそ「予習」が必要です。高校3年生はその練習と考えて「予習」をしてみましょう。

- (5) 福島市には、立派な福島市立図書館があります。福島市内の大学の図書館は許可を得れば、福島市民や福島で学び働く人は利用できる所があります。大学図書館も大いに利用させて頂きましょう。(多くの大学の図書館は許可を得れば誰でも利用できます)
- (6) 大学入試の受験生や大学生・大学院生は図書室や図書館を大いに活用。「わからないところをはっきりさせてから授業に臨む能力」を1日も早く身に付けてください。
- (7) 十分に準備をし、よくわかっていることとよくわからないことを明確にしてからものごとに臨むという予習の考え方は、社会に出て仕事や社会的な活動をするときに最も役立ちます。企業や社会で大切な「課題の発見」、「課題の解決」の基本は十分な下調べ、つまり「予習」だからです。



Q10 : 授業における「理解」のポイントは何ですか。

- A : (1) 学校や予備校の授業に出席して先生のお話を聞き、「ああ、これはこういうことだったのか」とよくわかる、納得する、つまり「理解」する最大のポイントは、十分な「予習」です。
- (2) ただ、予習も大切ですが、「欠席」、「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「ケータイやスマホ」、「ボーッとしていること」、「授業以外のことをしていること」は「授業での理解」の妨げになります。「私語」つまり「おしゃべり」は授業妨害行為そのものです。先生がお話しているときは「お口にチャック」、一言も言葉を発しないこと。
- (3) 授業での「理解」で大切なことは、前の方の席、できれば一番前の席に着席することです。手を机の上に置き、先生の口元や表情を見てお話を聞くことも大切。さらに大切なのは、必要なことはノートにメモを取り続けること。先生が黒板に書いたことやお話されたことで大切と思われることを自分なりにまとめて「ノート」に取れるのは大切な能力です。

Q11 : えー。「ノートが取れる」のは大切な能力なのですか。

- A : (1) その通りです。逆にお聞きしますが、皆さんは英語やフランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ドイツ語で授業を聞いてノートが取れますか。英語はともかく、その他の言語での授業を聞いてノートが取れる方は極めて少ないのではないのでしょうか。
- (2) 皆さんは、日本語や英語での授業についてはノートを取ることができる能力があるのではないと言えます。1つの言語の修得において、その言語によって学校での授業のノートを取ることができるのは、聞き取り能力や書く能力の中で最も高いレベルの能力と言えます。日本語での学校の授業を聞いてノートが取れるのは、皆さんの日本語の言語能力が極めて高いからです。高校や大学に在籍している間にしっかりと身に付けてくださいね。
- (3) 人が話した内容をノートやメモに取れることは、社会に出て仕事や社会的な活動をするときに極めて大切です。ノートやメモを取る能力が身に着いていないと、仕事にならない、一歩も進まないことも多いと思われれます。聞いたことのすべてを正確に記憶し、その記憶を長時間維持することは困難だからです。メモを取らず曖昧な記憶では、約束が果たせず、お客様やビジネスパートナー、同僚や関係者に大きな迷惑をもたらします。信頼を損い、損害や事件・事故を発生させることすらあります。「仕事や社会的な活動の上でメモを取る能力は極めて重要」です。その練習が、学校の授業でノートを取ることとも言えます。学校での教育はすべて社会で役立つとよく言われるのは、このようなことかもしれませんね。



Q12:「定着」とは何ですか。

- A : (1)「予習」や「授業」などでうんなるほどとよくわかった、「理解」した内容を、スミからスミまで正確に身に着けること。これを「定着」と私は呼んでいます。
- (2)「理解」した内容をスミからスミまで正確に身に着ける、「定着」させるには、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「3つの練習」が考えられます。この「3つの練習」を、私は「定着のための3大練習」と名付けました。
- (3)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾・小泉信三先生の言葉が私は好きです。「定着のための3大練習」は、「不可能を可能」にします。

Q13:「音読練習」はどのように行えばよいのですか。

- A : (1)まずは、「教科書」や「授業中のノート」、「大切な語句やその意味」、特に「定義(～とは…だ)」、「公式」などを、スラスラとよく読めるようになるまで少し大きな声を出して何回も、何回も読むことです。
- (2)次に、教科書やノートの内容、語句の意味や定義、公式などが何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになるまで繰り返し、繰り返し、何度でも少し大きな声を出してひたすら読むことです。
- (3)同時通訳で有名な国弘正雄先生は、学校の英語の教科書を500回以上ひたすら音読し、英語の基本を身に着けたそうです。
- (4)スミからスミまで正確に身に着けるまでひたすら声を出して読み続ける。この音読練習が、「定着」には最も効果があります。

Q14:「書き取り練習」はどのように行えばよいですか。

- A : (1)「音読練習」をして、「スラスラと読めるようになった」、「何も見ないでスラスラと口をついて言えるようになった」内容を、何も見ないで正確に書けるようになるまで、繰り返し、繰り返し書き取る練習をすること。これが「書き取り練習」です。
- (2)「書き取り練習」をして身に着けた内容は、おそらく一生忘れることはありません。一生の宝物となります。
- (3)書き取り練習をする「書体」は、読みやすい「楷書(かいしょ)」(教科書に出ているような書体)で書くように努めてください。「数字」もくずさずに正確に書くことを目指してくださいね。
- (4)アルファベットはブロック体だけでなく、筆記体でも美しく、また、速いスピードで正確に書けるように練習してください。
- (5)日本人は書道の伝統があるためか、文字を美しく書くことのできる数少ない民族です。美しい文字を書く人は、どこの国でも教養のある人と高い評価を受けます。美しく、わかりやすい文字を書くことを「書き取り練習」を通して身に着けてください。

Q15:「計算・問題練習」はどのように行うのですか。

- A : (1)なぜそのような解答になるのか、その理由が一度よく「理解」できた計算や問題は、その問題を見た瞬間に条件反射でパッ、パッ、パッと正解が出るまで繰り返し計算や問題を解く練習を行うこと。これが「計算・問題練習」です。
- (2)教科書の計算や問題だけでなく、問題集の計算や問題、最終的にはその試験で過去に出題された「過去問」(かこもん)の計算や問題についてもこの練習をすることが「計算・問題練習」です。偏差値を1上げたければ1回、2上げたければ2回、15上げたければ15回、この計算・問題練習を行うべきと教える先生もおられますよ。

(3)「過去問」自体やその「解答・解説文」自体の「音読練習」、「書き取り練習」も極めて有用です。

Q16：「理解」、「定着」の他にも大切なことはありますか。

- A：(1)「過去問」を解くことです。「大学入学共通テスト」でしたら、各教科の15年分の問題(追・再試験問題もあるので30回分)を5回以上解くこと。
- (2)間違えた問題をまとめる「間違いノート」と大切なことをまとめる「まとめノート」を作成し、繰り返し読み直すこと。この2つが大切です。
- (3)「模擬試験」や「大学入学共通テスト」の「過去問」を解いたあとに大切なのは、全力を傾けて自分の力で解いた問題の内容を、学校の教科書と同じように大切に考えて、辞書や用語集、参考書を用いて出題されたすべての問題と解答集の解説文の「理解」に励むことです。「理解」した内容(出された問題のすべてと、解答集の解説文のすべて)を、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返してすみからすみまで正確に身に着ける、つまり「定着」させることです。
- (4)「間違いノート」と「まとめノート」も十分に「理解」し、「定着のための3大練習」を行うことです。
- (5)要するに、一度真剣に取り組んだすべての「テキスト」と「ノート」、「問題」をすみからすみまで正確に「理解」し、「定着」させること、これが学力の大幅向上のポイントです。
- (6)時間はかかりますが、学力は確実に急速に向上します。現在の成績は全く関係ありません。

Q17：大学入試のための学習は大学に進学して役に立ちますか、社会に出て役に立ちますか。高校での学習は大学に進学して役に立ちますか、社会に出て役に立ちますか。

- A：(1)大学教育の前提は高校での教育ですので、大学入試のための学習や高校での学習は全教科すべて役に立ちます。役に立たない内容は1つもありません。社会に出てもすべて役に立ちます。
- (2)むしろ、大学教育の大問題は、高校卒業生の学力があまりにも低くて大学の教育が成立しないことです。入試に出題される科目しか学習しないで大学に入学する人があまりにも多いためです。高校で学ぶべき内容を全教科とも本気で学習しない限り、大学の教育にはついていけません。また、高校で学ぶすべての教科は、社会に出て仕事や社会的な活動をする基本中の基本です。高校で十分に学習していないと、社会に出てからよい仕事や社会的な活動もできません。
- (3)ですから、学年末試験では、全教科をすみからすみまで正確に「理解」し、「理解」した内容は「定着のための3大練習」をしてすみからすみまで正確に身に着け、全教科100点満点を取って、3学年に進学してください。
- (4)3学年に進学してからも全教科をまんべんなく学習してから大学に進学してくださいね。

Q18：入学する大学が決定したら、大学の入学式までの間に何をしたらよいですか。

- A：(1)英語の学習を本格的に行ってください。英検は2級か準1級に1日も早く合格してください。
- (2)多くの大学では、大学入学後にTOEICという実用英語試験に挑戦させ、卒業までに600～650点以上のスコアを取ることが求められます。ですから、希望校に合格が決まった人はTOEICの学習も高校生のうちからスタートさせましょう。大学生になると、グローバル化に対応できる「英語によるコミュニケーション能力の向上」が求められます。
- (3)大学入学後、大学では多くの情報がPCを通じて提供されます。レポートなどもPCでの

作成や提出が求められます。「ワード、エクセル」の学習を初級、中級、上級と進めてから大学に入学しましょう。大学に入学してからも、より高度な「コンピュータのスキル向上」が求められます。

- (4)自分のことは自分で行う。朝 1 人で起き、朝食やお弁当、夕食、おやつを自分で作ることができること。部屋やトイレ、風呂場を自分で掃除して清潔さを保つことができること。洗濯を自分でできること。夜は決まった時間に床に就き、十分な睡眠時間を確保して「健康を維持する」ことができること。これらはすべて大切な「能力」です。これらの能力を身に着けるための「学習」と「練習」を高校卒業までに終了させてくださいね。
- (5)大学に出掛け、1 学年で学ぶ専門や教科、第 2 外国語のテキストを大学の購買部(書店)で買い予習することです。NHK ラジオの語学番組のテキストも超オススメです。英語以外の第 2 外国語が必修になっている大学では、ボーッとしていると授業に追いついていけず、単位が取得できずに留年や退学の原因になることがあるからです。
- (6)大学入学後は、説明会などに参加して単位の履修の仕方を十分に学び、あまり無理をせずに必要な単位をお取りください。大学の授業はすべて 90 分。90 分の授業が 15 回で 2 単位となります。科目ごとにレポートや宿題が課せられることが多く、欠席が多いと期末テストが受けられません。90 分の授業について、大学図書館などを用いて 4 時間 30 分の予習や復習、調査・研究が前提とされるのが大学の授業です。
- (7)大学に入学してどのようなことがしたいのかも、入学する大学に何回か出掛けて考えてくださいね。
- (8)学校時代の友人は一生の友人。先生は一生の恩師です。友情を少しずつでも育んでくださいね。

Q19 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1)これからの 1 年は、おそらく皆様がこれ以上学習したことがないというくらい熱心に学習する 1 年になると思われます。大学は高等教育機関で、そこに入学するにはそれだけの学力が求められるのですから、当然とも言えます。
- (2)ただし、覚えておいて頂きたいのは、このような 1 年を過ごすのは日本の高校生だけではないということです。中国でもインドでもアフリカでもヨーロッパでもアメリカでも、世界中で大学進学を目指す高校生は文字どおり「一所懸命」に「一つの所で命を懸(か)けるくらい熱心に」学習に励んでいるのです。グローバルな社会では、皆様の競争相手は日本の高校生だけではなく、世界の高校生です。同時に、これからの大学では留学の機会がたくさんありますので、世界中の大学生と友達になることもできますよ。
- (3)学力が身に着くとどうなるか。「人生の選択肢」が増えます。「多様な選択肢のある人生」を歩む機会・チャンスが得られます。また、学力が身に着いた人が多いと「社会が正常に機能する」ようになります。また、個人として社会の課題解決に貢献することもできます。「正常に機能する社会の形成に貢献すること」も可能となります。

以上

